

北河内認定こども園の子供たちは、毎月の稲生さんの絵本の時間を楽しみにしている



そんなある日、知人から「お話会で絵本を読んでもいい？」と声を掛けられました。この誘いがきっかけで図書館や幼稚園で開かれるお話会で絵本を読んだり、昔話の語りの活動を始めた

最後に本と共に生きてきた稲生さんにお薦めの本を尋ねました。「多くの人は、大人になると絵本を読まなくなります。でも絵本って本当に面白いんですよ。子供だけでなく、大人にこそ、絵本の良さを味わって欲しい」と話してくれました。

子供たちは目を輝かせ、読み手の次の言葉を待ちます。ストーリーに身を委ね、絵本の世界に入り込む子供たち。そんなお話会の会場で絵本や昔話を語り伝えているのは稲生堯子さんです。稲生さんは外で遊ぶよりも本を読むことが大好きな少女でした。父も母も本が好きだったので、面白い本に出会うと家族で感想を言い合うなど、本を

通して自然に会話が弾む環境で育ちました。中・高生の時は夏目漱石に夢中で漱石の作品や解説書をよく読んでいました。「漱石の本ばかり買っていたので新刊が入ると本屋さんから声を掛けられるほど」と振り返ります。短大卒業後、岩国に帰った稲生さん。図書館主催の児童文学研究会に通信開始するなど、成人になっても稲生さんのそばにはいつも本がありました。結婚し、母になってからは、親子で読書会やお話会に参加するようになります。

りするようになりました。活動を続けていく中、今では幼稚園や図書館だけでなく、小学校やグループホームなど幅広い世代の人々を対象に活動を行っています。「読み聞かせや語りの活動を続けていると、感謝の言葉を掛けてもらうことが多いのですが、私にとっては参加してくれた人から聞く感想こそ財産です。特に子供の柔軟な発想はうらやましいくらいです」と話す稲生さん。お話会で聞いた感想はノートに書き留め、そのノートは稲生さんにとって大切な宝物です。



おもしろい本
いっぱいあるんだから！

Vol.159
いのう たかこ
稲生 堯子さん
(岩国在住)

読書会やお話会などで絵本の読み聞かせなどのボランティアとして活動。岩国図書館で開催される小学生のためのおはなし会「やまんばがやってくる」は25年以上携わり続けている。



稲生さんのおはなし会ノートには参加者からの言葉の宝石が書きつづられている



岩国図書館のおはなし会で絵本の読み聞かせをする稲生さん(1996年)

